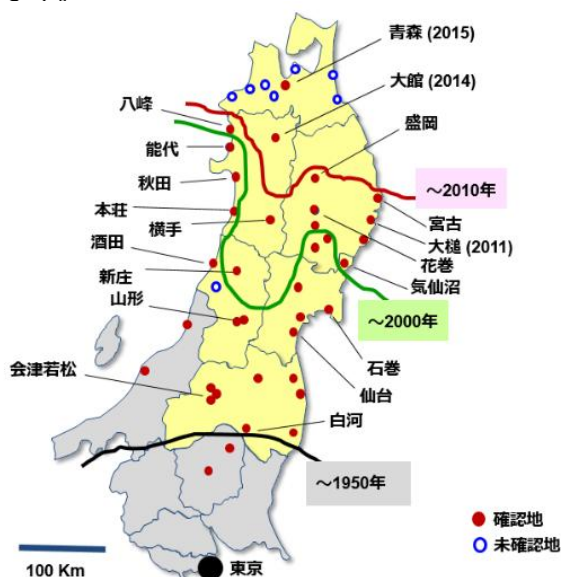


## ○気候変動により蚊の活動期間や生息域が広がる

蚊はデング熱をはじめとする様々な感染症の病原体を媒介し、場合によっては人命に関わる深刻な被害をもたらします。

日本で最も一般的に見られ、ヤブ蚊とも呼ばれる「ヒトスジシマカ」はデングウイルスを媒介します。2014年には、日本国内でもデング熱の感染が広がりました。気温が高い期間が長くなると、蚊の活動期間も延び、ウイルスが広がりやすくなります。

ヒトスジシマカの分布域の調査と気温との関係に関する研究から、分布域の北限が徐々に北へと広がっていることが明らかになっています。こうしたことから、愛知県でも気温の上昇により蚊が活動できる期間が春から秋にかけて長期化することが懸念されます。



ヒトスジシマカの分布域の拡大

出典：気候変動適応情報プラットフォーム (A-PLAT)  
([https://adaptation-platform.nies.go.jp/tools/e-learning/study/el-05\\_05\\_02.html?font=standard](https://adaptation-platform.nies.go.jp/tools/e-learning/study/el-05_05_02.html?font=standard))



ヒトスジシマカの成虫  
写真：国立健康危機管理研究機構

## ○蚊媒介の感染症対策「刺されない」「発生させない」

ヒトスジシマカが活発に活動する日中に、屋外で活動する場合には、虫よけを使用したり、できるだけ肌の露出を控えるなど蚊に刺されないようにしましょう。

また、蚊は、庭やベランダにあるバケツ、空き缶などにたまった水に好んで産卵するため、不要な水を減らして、蚊の発生を抑えましょう。



内閣府 政府広報オンライン  
「デング熱」にご注意を！予防策は「蚊に刺されない」「蚊を発生させない」より抜粋

愛知県気候変動適応センター  
(環境調査センター 企画情報部)  
電話 052-910-5489 (ダイヤルイン)

愛知県気候変動適応センターだよりのバックナンバーはこちら  
<https://www.pref.aichi.jp/site/ailccac/tekiou-dayori.html>

